

中瀬有紀

右か左か



Skating in Central Park

上の写真は、夕暮れ時に撮影しましたセントラルパークのスケート場、Wollamn Skating Rinkです。Kate Wollman氏の寄付金により1949年に設立され、その名がつけられました。現在は運営会社 Trump Organizationのもと Trump Skating Rinkとして知られ、冬の間はほぼ毎日、週の後半や祝祭日は午前10時から午後11時まで営業しています。

ニューヨークにはこのほかにもロックフェラー・センターなどに野外スケート場がありますが、このスケート場に来て一番驚いたことは、滑走が右回り(時計回り)であることです。20世紀の初頭にIAAF(国際陸上競技連盟)がルールとして左回り(反時計回り)を取り決め、陸上競技トラックにおける進行方向は左手が内側になるのが標準となりました。スピードスケートや野球のベースランニングなども、競技者は左回りに走ります。写真のリンクのすぐ横に設置されているスケート教室用のスペースでは、フィギュア・スケート選手たちが左回りに滑走し左足を軸に左に向かって回転ジャンプするのを横目に、なぜこの一般に公開されているスケート場だけが右回りなのか、非常に不思議でした。

しかし、IAAFが左回りのルールを定める以前の近代オリンピックでは、1906年のアテネ五輪まで右回り

のトラックも存在していました。さらに、左回りに決めた理由が不確かで、右回りが人間にとって完全に不自然だとは言いきれません。実際に、ほかの競技やパフォーミング・アーツに目を向けると、女子新体操団体競技では5名のチーム全員が開脚ジャンプで大きく移動する演技で、大抵のチームが右足を前に四角いフロアを右に回り、バレエ『白鳥の湖』第三幕での「黒鳥のパ・ド・ドゥ」のグラン・フェッテは、オーディールが左足を軸に右に回ります。

日米間で左右に関わる大きな違いは、自動車の通行区分でしょう。世界でも少数派である車両の左側通行を採用している日本と、右側通行のアメリカの両国で自動車を運転するとき、体がそれぞれの通行区分に完全に慣れるのに3日ほど要します。舞台・テレビスタジオにまつわる左と右は非常に小さな、しかし興味深い題材です。日本では舞台でもテレビでも、客席・カメラから見て左側が下手、右側が上手ですが、アメリカの舞台では下手がStage RightまたはHouse Left、上手がStage LeftまたはHouse Right、テレビと映画では下手がCamera Left、上手がCamera Rightです。舞台に立つ役者を基準に生まれたStage RightとStage Leftが一番頻繁に使用されますが、これらをややこしいと感じるのは私だけではないようです。